

- - REFLECTING & PLANNING - -

Unit Focus (ユニットフォーカス) -Overview-

Transdisciplinary Theme (教科の枠をこえたテーマ):
What element(s) of the theme descriptor will be addressed?

Where we are in place and time

An inquiry into histories and orientation in place, space and time through:

- periods, events and artefacts
- **communities, heritage, culture and environment**
- natural and human drivers of movement, adaptation, and transformation

私達はどのような時代と場所にいるのか

歴史上の出来事と、場所、空間、時間における位置づけを以下の項目を通して探究する。

- 時代、出来事、アーティファクト
- **コミュニティー、歴史的遺産、文化、環境**
- 自然および人間の活動を起因とする動き、適応、変革

Central Idea (セントラルアイデア):

The state of culture is influenced by changes in people's lifestyles and ways of thinking

文化は人の生活や考え方に影響される

Lines of Inquiry (探究の流れ):

- 私たちの文化の再発見
- 行事の発展と移り変わり
- 私たちの暮らしと文化のつながり

Transdisciplinary Elements (学際的要素)

Specified Concepts (特定概念):
2-3

- Form 特徴
- Causation 原因
- Connection 関連

Additional Concepts (付加概念):
From 3-4 subject areas (教科エリアとの関連)

- 伝統
- 変化
- 文化
- 持続可能性

Approaches to Learning (学習の方法):

What skills are the students practicing to develop? What connections can be made between the ATL and Learner Profile?

生徒はどのようなスキルを身に付けるために練習していますか？ ATLと学習者プロフィールの間にはどのような接続を確立できますか？

Main	Sub	Students become to be able to
Research	Information literacy : Formulating and Planning 情報リテラシー (考案及び計画)	Ask or design relevant questions of interest that can be researched. 自分にとって興味のある、リサーチの対象になり得る問いを考える。
Communication	Exchanging information : Interpreting 情報の交換 (解釈する)	Be aware of cultural differences when providing and interpreting communication. コミュニケーションの発信と解釈には文化的な違いがあることに注意し、多面的に捉えて解釈する。
	Literacy : Writing リテラシー (書く)	Use appropriate forms of writing for different purposes and audiences. 異なる目的や、読み手・聞き手に応じて適切な記述形式を用いる

Learner Profile Attributes (学習者像):

How does the learning support the development of the Learner Profile? 学習は、学習者像の発達をどのようにサポートしますか？

- Communicators コミュニケーションができる人
仲間と情報を共有しながら情報を整理・選択し、他者に伝えるための効果的な方法を考え、自信を持って表現することができる人
- Inquirers 探究する人
概念レンズを・見方・考え方として活用し、目的に合わせて調査したり、まとめたりすることができる人

Learning Goals and Success Criteria (学びのゴールとサクセスクライテリア)

🎯 Learning Goals (学びのゴール) : What should students know, understand, and be able to do? How are learning goals co-constructed by teacher and students?
生徒は何を知り、理解し、何ができるべきでしょうか？学習目標は教師と生徒によってどのように協働構築されていますか？

Summative assessment task
「お気に入りの行事について伝えよう」

Criteria	Rubric	C	B	A
Conceptual Understanding セントラルアイディアの概念的 理解 行事の調査を通して、人々の どのような考え方が行事とい う具体的な形に表されている のかを述べるができる。		文化についての概念的な 理解が、自分の言葉で書 けていない。	・行事の視点から見ると、文 化は、①季節ごとに人々の生 活の仕方や仕事に合わせて、 感謝や願いを表すものとして 受け継がれてきた考え方であ ること、また、②時代の変化 によって生み出され、意味や 形を変えながら多くの人に よって行われるものであるこ との2点のうち、どちらかにつ いて自分の言葉で説明でき ている。	・行事の視点から見ると、文 化は、①季節ごとに人々の生 活の仕方や仕事に合わせて、 感謝や願いを表すものとして 受け継がれてきた考え方であ ること、また、②時代の変化 によって生み出され、意味や 形を変えながら多くの人に よって行われるものであるこ との2点について、自分の言葉 で説明できている。
ATLスキルの発達 自分が調査したことを、聞き 手の立場にたって理解しやす いように、言葉や内容の選 択・組み立てを考えることが できる。		聞き手の立場に立った ・問いを明確にした説明 文構造 ・適切な段落構成 ・文章（話）の内容を補 い、明確にするためのス ライドの作成 のうち1点以下について しか考慮されていない。	聞き手の立場に立って、 ・問いを明確にした説明文構 造 ・適切な段落構成 ・文章（話）の内容を補い、 明確にするためのスライドの 作成 の3点のうち2点について十 分に考えられたプレゼンを構 成することができる。	聞き手の立場に立って、 ・問いを明確にした説明文構 造 ・適切な段落構成 ・文章（話）の内容を補い、 明確にするためのスライドの 作成 の3点について十分に考えら れたプレゼンを構成すること ができる。
学習者像とATLスキルの発達 調査したことを、整理・選択 し、他者に伝えるための効果 的な方法を考えプレゼンをす ることができる。		聞き手の立場に立ち、自 信を持ってわかりやす く表現することができ ていない。	聞き手の立場に立ち、以下の3 点のうち2点において、表現 することができる。 ①言葉の適切な選択 ②他者に伝えるための効果的 な表現方法（話し方、伝え 方） ③自信を持ってわかりやすく 話す	聞き手の立場に立ち、以下の 3点全てにおいて、表現す ることができる。 ①言葉の適切な選択 ②他者に伝えるための効果的 な表現方法（話し方、伝え 方） ③自信を持ってわかりやすく 話す
Subject area 教科の学び 教科の学びを生かして課題に 取り組むことができる。 ・文章のきまり ・説明的な文章の構成 ・文や語の選択		プレゼン原稿について ①学習した説明文構造を 使い、はじめ、中3段 落、おわりの5段落で構 成されている。 ②初めの段落には、問い が書かれている。 ③中の段落は、自分の 使った概念レンズに基づ いて書かれている。	プレゼン原稿について ①学習した説明文構造を使 い、はじめ、中3段落、おわ りの5段落で構成されてい る。 ②初めの段落には、問いが書 かれている。 ③中の段落は、自分の使った 概念レンズに基づいて書かれ ている。	プレゼン原稿について ①学習した説明文構造を使 い、はじめ、中3段落、おわ りの5段落で構成されてい る。 ②初めの段落には、問いが書 かれている。 ③中の段落は、自分の使った 概念レンズに基づいて書かれ ている。

🌱 Potential Action (潜在的なアクション) : What should students be able to do? What opportunities are there for building on prior learning to support potential student-initiated action?
生徒は何ができるようになるべきですか？潜在的な生徒主導の行動をサポートするために、事前の学習に基づいて構築するためのどのような機会がありますか？

Students will know... 知る	Students will be skilled at... できるようになる
<ul style="list-style-type: none"> ・日本には古くから伝えられ、今も大切にされている行事があることを知る。 ・季節ごとに行事があり、行事にはその時期にあった意味があることを知る。 ・行事には、農業を軸に、願いと感謝の意味がこめられていることを知る。 <p>言葉：年中行事、節句、文化、伝統、生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・受け継がれる行事も、新しく定着した行事も、人々の願いと感謝が反映されていることが理解できる。 ・文化として受け継がれる行事も、新しく定着した行事も、人々の生活や考え方に関連していることが理解できる。 ・文化は人々の生活や考え方の変化によって、変容していくものであると理解できる。 ・複数の見方（重要概念）を使うことで、行事の意味を捉えたり、新たな価値を発見したりすることができる。 ・調査を通してわかったことを、他者に伝わりやすい話し方や順序で説明することができる。

④終わりの段落には、自分の選択した行事が、どのような願いや感謝に基づいて行われているかが明確に書かれている。
⑤文章の決まり（段落替え・句点・接続語）が守られている。
5項目のうち1項目以下しか基準に達していない。

④終わりの段落には、自分の選択した行事が、どのような願いや感謝に基づいて行われているかが明確に書かれている。
⑤文章の決まり（段落替え・句点・接続語）が守られている。
5項目のうち2～3項目以上ができています。

④終わりの段落には、自分の選択した行事が、どのような願いや感謝に基づいて行われているかが明確に書かれている。
⑤文章の決まり（段落替え・句点・接続語）が守られている。
5項目のうち4項目以上ができています。

Unit Map Connections (Between and Beyond the Disciplines)

Science (理科領域) :

Unit	Focus
—	【知・技】 【思・判・表】 【態度】

Past Learning (既習の学習) : connections to learning within and outside the POI POI内外の学習へのつながり

・Unit 4において学習した重要概念の使い方を、本ユニットにも適用する。重要概念をレンズとして用いて、多面的に文化や行事、人の考え方や生活様式の変化などを捉える。

・国語の教材を通して、遊びや食事、服装などといった、他の文化を解釈するための視点を知る。

セントラルアイデア
文化は人の生活や考え方に影響される

特定概念
特徴・原因・関連

付加概念
伝統・変化・文化・持続可能性

一般化の文 (予想される概念的理解)
行事の視点から見ると、文化は、季節ごとに人々の生活の仕方や仕事に合わせて、感謝や願いを表すものとして受け継がれてきた考え方と言える。時代の変化によって生み出され、意味や形を変えながら、多くの人によって行われ、昔も、今も、これからも続いていくものである。

Social Studies (社会科領域) :

Unit	Focus
えがおのひみつたんけんたい えがおいっぱい はっぴょう会	【知・技】・自分のことや伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさがわかっている。 ・伝える際に、適切な挨拶や言葉づかいをしている。 【思・判・表】相手の反応を確かめながら、伝え方を工夫している。 【態度】相手の反応や状況に合わせて、多様な方法で伝えたいことや気持ちを表そうとしている。

Math (算数領域) :

Unit	Focus
10000までの数	【知・技】4位数までの数を書いたり読んだりすることができる。4位数までの数の表し方、大小、順序、相対的な大きさなどを理解し、数についての豊かな感覚をもつことができる。 【思・判・表】十進位取り記数法の仕組みに気づき、数の相対的な大きさを捉える力を養う。 【態度】10000までの数について進んで関わり、身の回りの具体的な個数を10や100、1000のまとまりにして書き表したり、十進位取り記数法の仕組みを数学的表現を用いて考えたりするなど数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理の良さに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。
長さ (2)	【知・技】ものさしを用いて、mを単位として測ったり、簡単な長さの加法、減法の計算をしたりすることができる。より長いものの長さを表す単位mを知るとともに、長さについての豊かな感覚をもつことができる。 【思・判・表】普遍単位の必要性に気づき、長さの表し方を考え表現したり、100cmより長いものの長さの表した方や、長さの加減のしかたを考えたりする力を養う。 【態度】身の回りにあるものの長さを測定したり比べ

Japanese (国語科領域) :

Unit	Focus
せかい一の話	【知・技】昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 【態度】進んで昔話の読み聞かせを聞いて伝統的な言語文化に親しみ、これまでの学習をいかして、おもしろいと思うことを共有しようとしている。
冬がいっぱい	【知・技】・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づいている。 ・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 【態度】積極的に、言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、学習課題に沿って見つけたものをカードに書こうとしている。
すてきなところをつたえよう	【知・技】丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気づけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。 【思・判・表】「書くこと」において、語と語や文と

English (英語科領域) :

Unit	Focus
Stand Alone	—

	たりすることについて進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理の良さに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。
たし算とひき算	<p>【知・技】テープ図で数量の関係を捉え、立式し、計算することができる。テープ図を用いると数量の関係がよくわかることや加法と減法の相互関係を理解することができる。</p> <p>【思・判・表】数量の関係を図や式などを用いて表現し、数量の関係を考える力を養う。</p> <p>【態度】加法と減法の相互関係について、数量の関係を絵や図に表し、関係を捉えやすくして式に表すことで、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理の良さに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p>

	文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 【態度】積極的に語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫し、これまでの学習をいかして手紙を書こうとしている。
ロボット	<p>【知・技】読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。</p> <p>【思・判・表】・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで、感じたことや分かったことを共有している。</p> <p>【態度】文章を読んで、感じたことや分かったことを進んで共有し、学習の見通しをもって、本を読んで分かったことを説明しようとしている。</p>

Visual Art (図画工作領域) :

Unit	Focus
世界一のすてきなぼうし	<p>【知・技】 ・帽子の土台となる型の形や材料集め、飾り付けの方法などをいろいろと試すなど、工夫して表している。</p> <p>【思・判・表】 ・自分がかぶってみたいくなるような帽子を思いつき、どのように表すかを考えている。</p> <p>【態度】 ・帽子をつくってかぶってみることに興味をもち、たのしく取り組もうとしている。</p>
<u>Stand alone</u>	<p>【知・技】 【思・判・表】 【態度】</p>

P.E. (体育領域) :

Unit	Focus
Stand alone <u>長縄</u>	<p>【知・技】 【思・判・表】 【態度】</p>

Local/Global Issues (ローカル/グローバルな問題) :

Issues	Focus
年中行事 ・クリスマス ・正月	地域・歴史・宗教的な観点から年中行事の違いを捉えるとともに、共通点を見出し概念としての理解につなげる。

Music (音楽領域) :

Unit	Focus
日本の歌でつながろう ・ずいずいっころばし ・あんたがたどこさ ・なべなべそこぬけ ・名前で旋律遊び	<p>学習者像：コミュニケーションができる人 付加概念：伝統 文化</p> <p>この題材では、友達と一緒に遊びながら歌う楽しさや喜びを味わう活動を通して、我が国や郷土の音楽のもつ雰囲気や表情などに自然に親しむことをねらっている。また、友達と遊んだり歌ったりする活動を通して、無理なく拍感を培ったり、我が国の音階など伝統的な音感覚を養ったりして、我が国の音楽らしさが感じられる旋律づくりをするための素地をつくっていけ</p>

Religious education (宗教学習領域) :

Unit	Focus
クリスマス	<p>【知・技】 救い主イエスキリストの誕生やなぜクリスマスが世界で祝われているのか、その由来について理解する。</p> <p>【思・判・表】 クリスマスがもたらす意味を理解し、現代の私たちにとってどのような意義があるのかを、グローバルな視点から理解し、自分のことばで伝える。</p> <p>【態度】 お祈りや聖歌を心込めて取り組み、興味をもって聖書の世界観をまなぶ。</p>

るようにする。

【知・技】

曲想と旋律や拍などの音楽の構造との関わり、言葉の抑揚について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くとともに、思いに合った表現や、発想を生かした表現をするために必要な、互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能や、設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付ける。

【思・判・表】


旋律、拍、フレーズなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもったり、旋律遊びを通して、音楽づくりの発想を得たり、曲や演奏の楽しさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。

【態度】

わらべうたに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や音楽づくり、鑑賞の学習活動に取り組み、ほかのわらべうたにも親しむ。


-- DESIGNING & IMPLEMENTING (計画と実践) --

Pre-Assessment (事前評価)

 How will we assess students' prior knowledge, understanding, and skill? How are we using data of prior learning to inform planning?
生徒の事前の知識、理解、スキルをどのように評価しますか？ 事前学習のデータをどのように使用して計画に情報を提供していますか？

- Unit 4 「見方を変えれば世界が変わる」の概念的理解
特定概念を使って多面的に文化や行事を捉える。
- 年末年始の体験の振り返り (冬休みの課題をもとに)

Ongoing Opportunities for Assessment

 **Teacher-Student Formative Assessment (教師と生徒の形成的評価) :**
What opportunities are there for students to receive teacher feedback? What evidence will we gather about students' emerging knowledge, conceptual understandings, and skills? How will we monitor and document learning against our learning goals and success criteria?
生徒が教師のフィードバックを受け取る機会がありますか？ 生徒の新たな知識、概念の理解、スキルについてどのような証拠を収集しますか？ 学習目標とサクセスクリテリアに照らして学習をどのように監視および文書化しますか？

Assessment Strategy (評価の方略) :

- 観察
- ディスカッション
- 振り返り
- 各教科のテスト
- 発表

Possible Evidence of Learning (学習の証拠) :

- 各ワークシート
- 各教科テスト
- プレゼンテーションのドラフト

形成的評価課題

① [節句についての調査シート](#)


A: 選択した節句について、3つの視点を使って分析し、絵とそれを説明する文章で調査した結果をまとめている。
B: 選択した節句について、2つの視点を使って分析し、絵とそれを説明する文章で調査した結果をまとめている。
C: 選択した節句について、1つの視点のみ、もしくは視点を使って分析することができず、調査結果を十分にまとめられていない。

② [選択した行事の3つのカギによる分析](#)

A 選択した行事について、特徴と、あと二つの概念レンズを使って分析し、それぞれが概念に合った内容でまとめられている。
B 選択した行事について、特徴と、あと二つの概念レンズを使って分析し、2つの視点について、概念と合った内容でまとめられている。
C 選択した行事について、特徴と、あと二つの概念レンズを使って分析できていない。もしくは、それぞれが概念に合った内容でまとめられていない。

Assessment Tool (評価ツール) :

- 振り返りシート
- テスト

 **Student Self-Assessment (生徒の自己評価) :**
How do students engage with the feedback to self-assess and adjust their learning? What opportunities will occur for students to engage with feedback to self-assess and self-adjust their learning? What opportunities for setting and reflecting on goals will exist?
生徒はどのようにフィードバックに取り組み、自己評価して学習を調整しますか？ 生徒が自分の学習を自己評価し、自己調整するためのフィードバックに取り組むためにどのような機会がありますか？ 目標を設定し、熟考するためのどのような機会が存在しますか？

- 調査シートの振り返り
- 発表原稿の推敲
- 発表の自己評価
- 振り返りシート

 **Peer Feedback (ピアフィードバック) :**
What opportunities are there for students to receive feedback from their peers?
生徒が仲間からフィードバックを受け取るためのどのような機会がありますか？

- ディスカッションでの意見共有
- 発表についての相互評価
- 発表練習でのフィードバック
- プレゼンテーションの評価

PYP Unit Planner, Grade : Grade 2 Unit 5 2024		Dates to Be Taught: 2025 Jan~2025 Feb
---	--	--

<ul style="list-style-type: none"> ループリック 相互評価シート 		
---	--	--

Questions to Drive the Inquiry (探究を駆動させるクエスチョン)

<p>Teacher Questions(探究を導く教師の質問): <i>What teacher questions and provocations will inform the lines of inquiry? どのような質問や挑発が探究の流れに繋がりますか?</i></p> <p>思考を促す問い:</p> <ul style="list-style-type: none"> 事実に関する問い <ul style="list-style-type: none"> 年中行事とは何か なぜこの時期にこの行事が行われるのか その行事は何のために行われるのか 概念的な問い <ul style="list-style-type: none"> 年中行事にこめられた思いや考え方は何か (同じことは何か) 行事の視点から見ると、文化とはどのように定義できるか。 議論を喚起する問い <ul style="list-style-type: none"> すべての行事に同じことがいえるのか (日本以外の行事も含めて) 文化を知るうえで、他の視点は何か考えられるか 	<p>Student Questions/Experience/Interests (生徒の質問/経験/興味) : <i>What questions will support and extend the inquiry? Are you building depth to the inquiry through a range of questions? どのような質問が探究をサポートおよび拡張しますか? さまざまな質問を通じて、探究に深みを与えていますか?</i></p> <ul style="list-style-type: none"> なぜこの時期にこの行事が行われるのか この行事が行われる意味や目的は何か 同じ目的で行われる行事があるのか 他の見方もできないか 私たちはそういう考え方もできる この特定概念を使って考えられるかもしれない。 この特定概念を使って見ると () だし、この特定概念を使えば () かもしれない。
--	---

Students' Agency

<p><i>How do we recognize and support student agency in learning and teaching? For all learning this means:</i></p> <ul style="list-style-type: none"> <i>involving students as active participants in, and as co-constructors of, their learning</i> <i>developing students' capacity to plan, reflect and assess, in order to self-regulate and self-adjust learning</i> <i>supporting student-initiated inquiry and action.</i> 		
<p>Voice(声)</p> <ul style="list-style-type: none"> 他にはどんな行事があるのか 同じことは何か違うことは何か 別の見方ができるか なぜ続いているのか いつから行われているのか 何のために行われるのか 私たちの生活とのかかわりは何か 	<p>Choice(選択)</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査の方法についての選択 調査対象についての選択 まとめ方の選択 発表のテーマについての選択 	<p>Ownership(主体性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ひとつの事象に対して、複数の視点から考えようとする態度 共通点と相違点から、統合的に考える態度 探究を楽しみ、最後まで調査や課題に粘り強く取り組む態度

学習と教育においてスチューデントエージェンシーをどのように認識し、サポートしますか? すべての学習にとって、これは次のことを意味します。

- 生徒を学習への積極的な参加者として、また学習の協働コンストラクターとして参加させる
- 学習を自己調整するために、計画、振り返り、評価する生徒の能力を開発する
- 学生が開始した探究と行動を支援する。

- - ONGOING REFLECTION & PLANNING (進行中の振り返りと計画) - -

Inquiry cycle	Learning plan and Learning contents	Ongoing Reflections <i>What adjustments need to be made based on observations and assessments? What new student questions are emerging that will connect to learning?</i> 観察と評価に基づいてどのような調整を行う必要がありますか？学習につながる新しい生徒の質問は何ですか？
Tuning in	<ul style="list-style-type: none"> • 年未年始のレポート 共通点を探す • 文化についてのウェビング➡共有➡予想と疑問の作成 • セントラルアイディア提示 	<p>G2 Unit 5 Week 1 "Tuning in" → "Finding out"</p> <p>Goal ・文化の概念について予想を立てることができる。 ・行事は文化を反映していることが分かる。</p> <p>Evidence ・Worksheet① 年未年始 ・年未年始の振り返りと共有 ・Worksheet② 正月についての再発見</p> <p>Contents ・文化って何？ ・年未年始にしたことはなんだろう。 ・お正月の行事について調べてみよう。</p> <p>Week 1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文化とは何か(導入) 予測を立て、探究で確かめることにつなげる また、疑問も出しておく。 2. 年未年始の調査シートの共有 年未年始の6日間の間にたくさんのトピックがある ことを知り、日本では正月を大切にしていることを捉 える 3. セントラルアイディアの共有 特定概念と探究の流れが繋がっていることも説 明する。 4. 正月についての再調査(探究の流れ1) クラスの共有で出てきたトピックについて調査す る。その際、重要概念(見方)を用いて、多面的に捉え るようにする。

Finding out

- ・行事についての調査
 - ➡ * 節句とは何か
 - * 年中行事とは何か
 - * 調査シートの作成
- ・文化としての行事についての調査
 - ➡ 調査シートの作成

G2 Unit 5 Week 2 "Finding out"

Goal

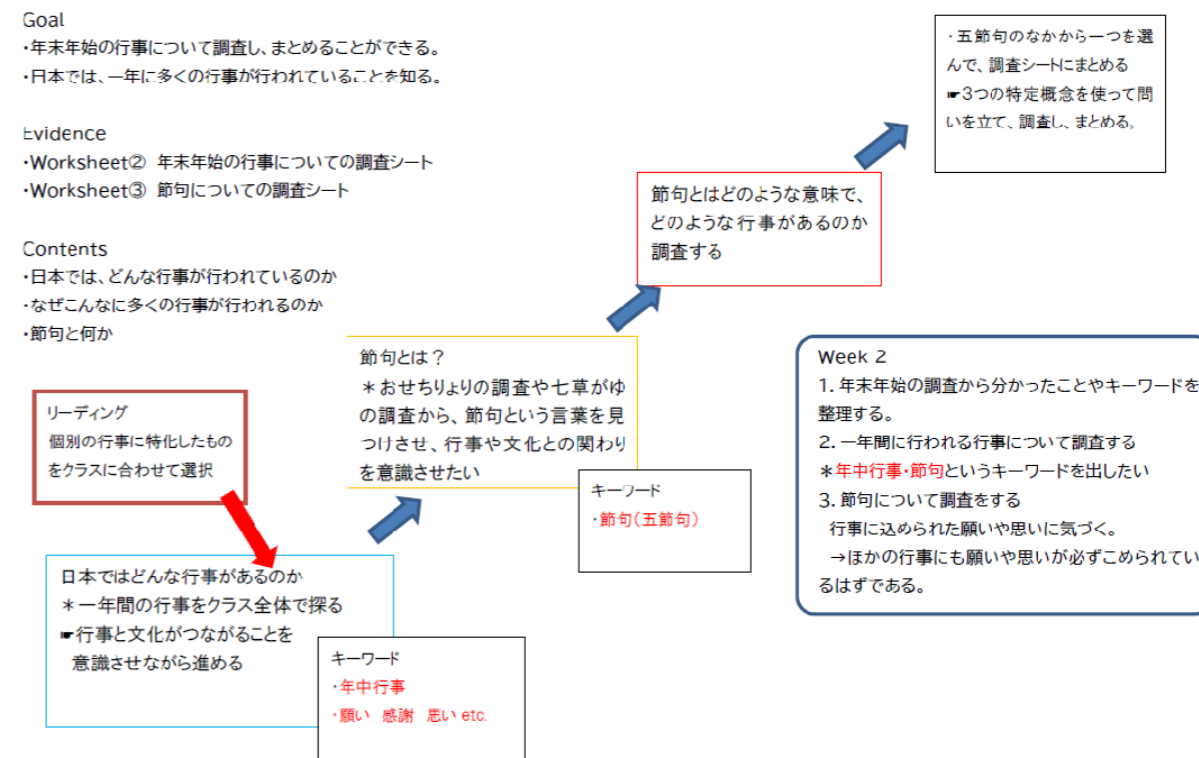
- ・年末年始の行事について調査し、まとめることができる。
- ・日本では、一年に多くの行事が行われていることを知る。

Evidence

- ・Worksheet② 年末年始の行事についての調査シート
- ・Worksheet③ 節句についての調査シート

Contents

- ・日本では、どんな行事が行われているのか
- ・なぜこんなに多くの行事が行われるのか
- ・節句と何か



G2 Unit 5 Week 3~4 "Finding out → Sorting out"

Goal

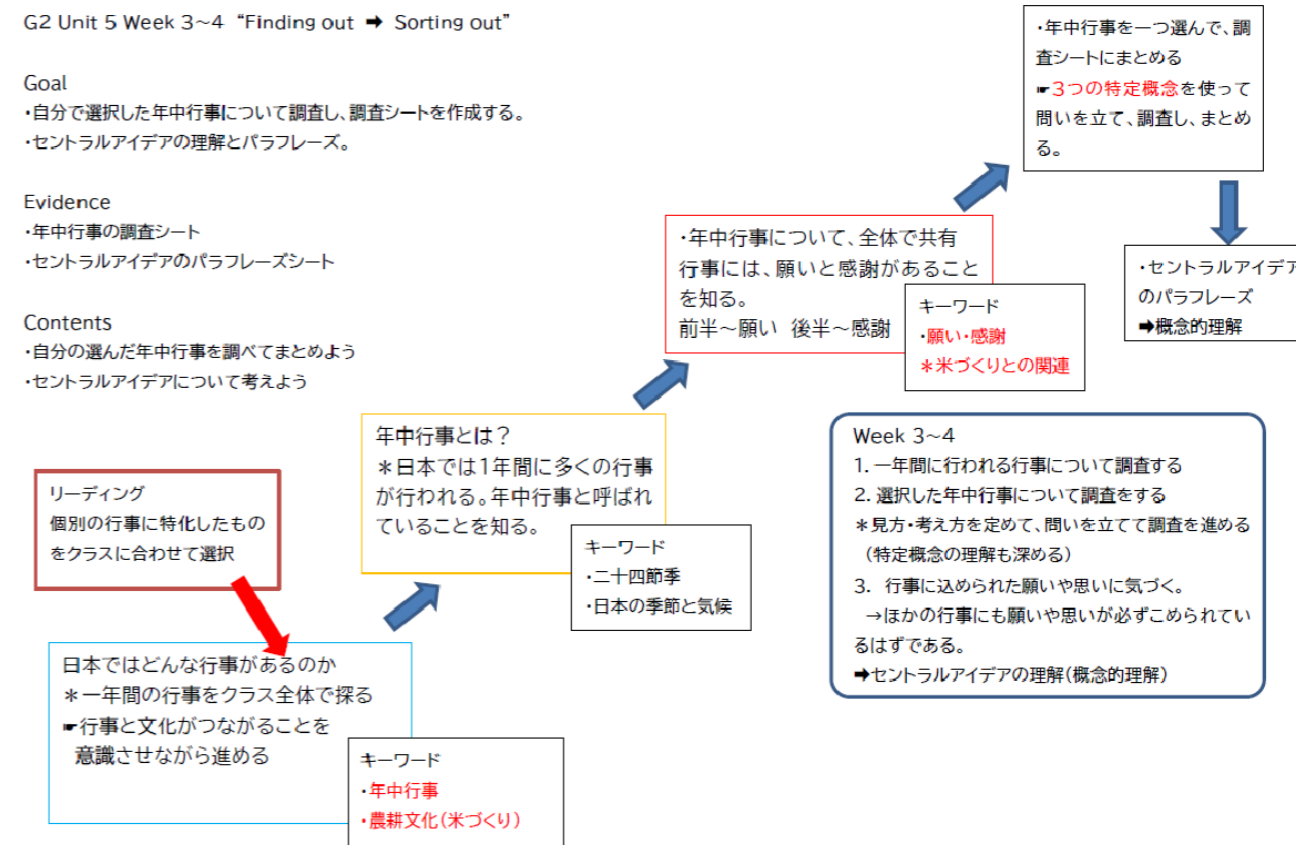
- ・自分で選択した年中行事について調査し、調査シートを作成する。
- ・セントラルアイデアの理解とパラフレーズ。

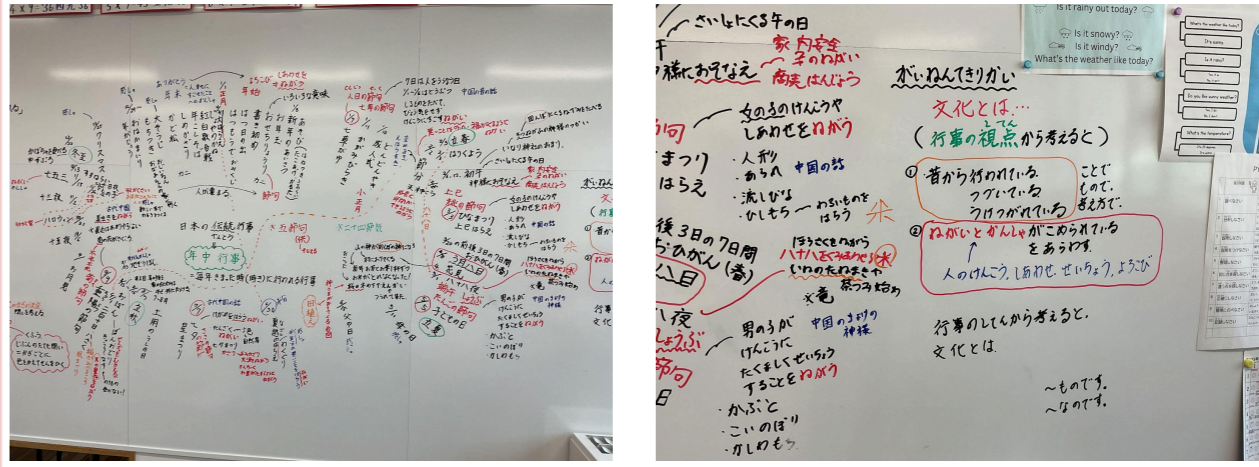
Evidence

- ・年中行事の調査シート
- ・セントラルアイデアのパラフレーズシート

Contents

- ・自分の選んだ年中行事を調べてまとめよう
- ・セントラルアイデアについて考えよう



<p>Sorting out</p>	<ul style="list-style-type: none"> 行事の共通点の整理 行事が人々の願いと感謝を反映していることを理解する。 	
<p>Going further</p>	<p>他の文化の視点についての探究</p> <p>ex ・食についての文化調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊びについての文化調査 文化を形成する歴史調査 	<ul style="list-style-type: none"> *じゃんけん *おにごっこ *家 *服装
<p>Making conclusion</p>	<p>お気に入りの行事についてのプレゼンテーション</p>	<p>保護者に向けたプレゼンテーション</p> <p>形成評価課題で作成した調査シートをもとに</p> <ul style="list-style-type: none"> *説明文のストラクチャーを用いて原稿を作成 *段落ごとに1スライドを作成（段落分のスライド数）
<p>Acting and applying</p>	<p>シチズンシップの向上と社会参画（家族・地域の社会の一員としての行事への参加）</p>	<ul style="list-style-type: none"> *行事への参加の報告や日記の紹介

Suggested Learning Opportunities and Student Inspired(提案された学習機会と生徒のインスピレーション)

Teacher Created Provocations (教師からのプロボケーション) :

年末とお正月にどんなことをしましたか？
 当たり前と考えていたことを再確認する
 特定概念を使ってウェビング→グループ・クラスでの共有
 なぜ年末や新年が特別なのかを多面的に考える→セントラルアイディア

Student Inspired (生徒のインスピレーション) :

Build in flexibility to add learning opportunities in response to students' interests & inquiries.
 生徒の興味や探究に応じて学習の機会を追加する柔軟性を構築します。

他の国の年中行事についての調査など

Making Flexible Use of Resources

How will resources add value and purpose to learning?

For all learning this means:

the thoughtful use of resources, both in and beyond the learning community to enhance and extend learning. This might include time, people, places, technologies, learning spaces and physical materials.

リソースはどのように学習に価値と目的を追加しますか？

すべての学習にとって、これは次のことを意味します。

学習を強化および拡張するための、学習コミュニティ内外のリソースの慎重な使用。これには、時間、人、場所、テクノロジー、学習スペース、物理的な資料が含まれる場合があります。

👤 **People/Community:**

- 家族、親戚
- 地域の人

🏠 **Technology:**

- Loilo note
- 行事の動画

📖 **Book List:**

書名	作者	出版社
せかいのくにでおめでとう!	野村たかあき	講談社
せつぶんだ まめまきだ	桜井信夫	教育画劇
ひなまつりにおひなさまをかざるわけ	瀬尾七恵	教育画劇
げんきにおよげ こいのぼり	今関信子	教育画劇
まんがでわかる日本の行事12か月	よだひでき	ブティック社
年中行事 (ポプラディア情報館)		ポプラ社

Learning Environment:

- 家庭
- 地域の行事